



2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年2月6日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 タカラトミー

コード番号 7867 URL www.takaratomy.co.jp

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小島 一洋

問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員連結管理本部長 (氏名) 伊藤 豪史郎 TEL 03-5654-1548

四半期報告書提出予定日 2024年2月7日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無：無

四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	160,251	7.7	17,267	32.3	16,579	36.3	9,036	11.1
2023年3月期第3四半期	148,760	13.4	13,052	△2.7	12,166	△10.2	8,132	△17.8

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期12,020百万円 (3.9%) 2023年3月期第3四半期11,570百万円 (2.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	99.18	99.09
2023年3月期第3四半期	88.70	88.63

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第3四半期	162,007	95,425	58.9	1,048.68
2023年3月期	159,519	87,167	54.5	950.39

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 95,391百万円 2023年3月期 87,012百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	-	17.50	-	15.00	32.50
2024年3月期	-	17.50	-	-	-
2024年3月期（予想）	-	-	-	25.50	43.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

配当予想の修正については、本日（2024年2月6日）公表いたしました「配当予想の修正（創業100周年記念配当）及び自己株式取得に関するお知らせ」をご参照ください。

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	200,000	6.8	17,000	29.6	16,500	37.0	9,000	8.2	98.77

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期3Q	93,616,650株	2023年3月期	94,990,850株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	2,652,572株	2023年3月期	3,435,898株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期3Q	91,117,135株	2023年3月期3Q	91,684,590株

（注）当社は「役員向け株式交付信託」及び「執行役員等向け株式交付信託」を導入しており、株主資本において自己株式として計上されている「役員向け株式交付信託」及び「執行役員等向け株式交付信託」に残存する自社の株式は、1株当たり純資産の算定上、期末発行済株式総数より控除する自己株式に含めており、また、1株当たり四半期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

今後の見通しにつきましては、5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

機関投資家・アナリスト向けの決算説明会につきましては、2024年2月6日にテレフォンカンファレンスにて実施する予定です。また、同決算説明会資料につきましては、同日に当社ウェブサイトに掲載の予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(四半期連結損益計算書関係)	10
(セグメント情報)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(2024年3月期第3四半期連結累計期間におけるハイライト)

当社グループは、企業理念である「すべての「夢」の実現」に向けて、玩具事業の強化をさらに進め、強固な経営基盤を築くとともに、海外展開を推進し、真の国際優良企業（Outstanding Global Company）への変革に取り組んでおります。また、2024年3月期においては、2022年3月期よりスタートした中期経営計画の最終年度として、経済活動や消費者の行動変化へ柔軟に対応を行い、中期経営計画の各施策達成に向かって取り組んでおります。

なお、当社を取り巻く経営環境については、新型コロナウイルス感染症による行動制限等が緩和され、設備投資や個人消費に持ち直しの動きが見られるなど景気は緩やかな回復基調となりました。一方で、世界的な金融引き締めや地政学的リスクの高まりによる、海外の景気後退懸念、為替の変動やインフレーション等、不透明感の高い状況が依然として続きました。

(連結業績について)

・売上高

子どもだけでなく大人に対しても魅力ある商品の企画開発と販売強化に取り組んでおり、「トミカ」では大人にも人気のある「トミカプレミアム」「ドリームトミカ」が好調に推移いたしました。また、7月には第4世代となる「BEYBLADE X（ベイブレードエックス）」を発売し、10月からはテレビアニメがスタートしたこともあり人気は拡大しました。

デジタル事業においては、カードゲームアプリ「デュエル・マスターズ プレイス」や10月に発売したロングセラー盤ゲーム「人生ゲーム」のNintendo SwitchTM専用ソフトが好評を博しました。

小売事業キデイランドでは、インバウンドの影響やキャラクター玩具の販売が伸長するとともに、タカラトミーアーツが展開するガチャ及びアミューズメントマシンの人気により売上が増加しました。また、中国においては、前期第1四半期に行われていたロックダウンの反動もあり販売が復調するとともに、北米ではTOMY International, Inc. のベビー用品の販売が好調に推移しました。

以上のとおり、主に日本、アジア地域での玩具および玩具周辺事業が引き続き堅調に進捗するとともに、グループ会社の売上伸長により、売上高については160,251百万円（前年同期比7.7%増）となりました。

・利益面

売上高の増加及び輸送費の落ち着き等による原価率の改善から売上総利益が伸長するとともに、販売費及び一般管理費における物流費の減少等から、営業利益は17,267百万円（前年同期比32.3%増）、経常利益については16,579百万円（前年同期比36.3%増）となりました。

また、当社連結子会社であるFat Brain Holdings, LLCに係る減損損失等を特別損失として計上したこともあり、親会社株主に帰属する四半期純利益については9,036百万円（前年同期比11.1%増）となりました。

(経営成績の概況)

<セグメント別業績の概況>

(単位：百万円)

	2023年3月期 第3四半期	2024年3月期 第3四半期	増減	増減率 (%)
売上高	148,760	160,251	11,491	7.7
日本	118,682	131,691	13,008	11.0
アメリカズ	23,631	23,380	△251	△1.1
欧州	5,551	5,437	△113	△2.1
オセアニア	2,260	1,971	△288	△12.8
アジア	46,619	44,739	△1,879	△4.0
消去又は全社	△47,985	△46,968	1,016	—
営業利益又は営業損失 (△)	13,052	17,267	4,215	32.3
日本	15,417	19,477	4,060	26.3
アメリカズ	△457	△292	164	—
欧州	△574	△447	127	—
オセアニア	121	183	62	51.8
アジア	1,856	1,550	△306	△16.5
消去又は全社	△3,310	△3,204	106	—

<日本>

(単位：百万円)

	2023年3月期 第3四半期	2024年3月期 第3四半期	増減
売上高	118,682	131,691	13,008
営業利益	15,417	19,477	4,060

子どもだけでなく大人に対しても魅力ある商品の企画開発と販売強化に取り組んでおり、「トミカ」では幅広いターゲット層に人気のあるコンテンツを取り入れた「ドリームトミカ」シリーズに加え、「トミカプレミアム」シリーズが好調に推移いたしました。「プラレール」においても、これまでの子ども向けの商品に加え、大人向けに「プラレール リアルクラス」の展開を6月にスタートさせるなど、年齢軸の拡大に努めました。現代版ベーゴマ「ベイブレード」の第4世代となる「BEYBLADE X」では、7月に玩具シリーズを発売し、子どもだけでなく大人からも注目を集めました。また、10月からはテレビアニメの放送を開始するとともに、世界的メタバースプラットフォーム「Roblox」に公式メタバースワールド『BEYBLADE PARK』をオープンするなど、デジタル連動を図りました。「トランスフォーマー」においては、新作映画公開に伴い関連玩具を新たに発売したものの、厳しい海外玩具市場の影響等から輸出が期待値には届きませんでした。

テレビ・WebでのIP展開としては、今期発売10周年を迎えた動物フィギュア「アニア」において、4月よりテレビアニメ『冒険大陸 アニアキングダム』の放送を開始しました。また、「トミカ」「プラレール」「アニア」から生まれたアニメ『ゴー！ゴー！びーくるずー』ではタカラトミー公式YouTubeチャンネルに加えて、4月からテレビ放送をスタートさせました。さらに、「トランスフォーマー」においては、2022年秋に全米で放送されたテレビアニメ『トランスフォーマー アーススパーク』の放送を10月より始めるなど、IPの積極展開に取り組ましました。

イベント事業においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から開催を中止していた「トミカ博」「プラレール博」等、各種イベントをゴールデンウィークより再開し好評を博しました。また、小売事業キデイランドでは、訪日外国人観光客を含めた人流の大幅な回復の影響やキャラクター玩具の販売が伸びました。タカラトミーアーツが展開するガチャ事業では、大型ガチャ売場の設置拡大とヒットコンテンツを使った大人向け商品の拡大等により売上が引き続き伸びました。アミューズメントマシンでは「ポケモンメザスタ」の人气が継続しました。

デジタル事業においては、カードゲームアプリ「デュエル・マスターズ プレイス」が人気キャラクターとのコラボ等によりビジネスを拡大させるとともに、10月にはロングセラー盤ゲーム「人生ゲーム」のNintendo Switch[™]専用ソフトを発売し好評を博すなど、自社IPのデジタル展開を進めました。

以上の結果、売上高については131,691百万円（前年同期比11.0%増）、営業利益は19,477百万円（同26.3%増）となりました。

<アメリカズ>

(単位：百万円)

	2023年3月期 第3四半期	2024年3月期 第3四半期	増減
売上高	23,631	23,380	△251
営業損失(△)	△457	△292	164

ベビー用品の販売が好調に推移するとともに、農耕車両玩具が堅調に推移いたしました。また、日本においてタカラトミーアーツが展開するぬいぐるみシリーズ「もっちいもっちい、海外商品名：Club Mocchi- Mocchi-」やロングセラー商品であるパーティーゲーム「黒ひげ危機一発、海外商品名：Pop-Up Pirate」の販売が伸びました。一方で、玩具市場全体の低迷によりFat Brain Holdings, LLCの販売が苦戦するなどもあり、売上高は23,380百万円（前年同期比1.1%減）、営業損失は292百万円（前年同期営業損失457百万円）となりました。

<欧州>

(単位：百万円)

	2023年3月期 第3四半期	2024年3月期 第3四半期	増減
売上高	5,551	5,437	△113
営業損失(△)	△574	△447	127

パーティーゲーム「Pop-Up Pirate」をはじめとしたゲーム玩具等や農耕車両玩具の販売が堅調に推移したものの、ベビー用品等の販売が減少したこともあり、売上高は5,437百万円（前年同期比2.1%減）、営業損失は447百万円（前年同期営業損失574百万円）となりました。

<オセアニア>

(単位：百万円)

	2023年3月期 第3四半期	2024年3月期 第3四半期	増減
売上高	2,260	1,971	△288
営業利益	121	183	62

農耕車両玩具の販売が堅調に推移し、ぬいぐるみ「Club Mocchi- Mocchi-」の販売が好調に推移したものの、ベビー用品等の販売が減少したこともあり、売上高は1,971百万円（前年同期比12.8%減）となりました。一方で、営業利益は輸送費の落ち着き等による原価率の改善から売上総利益が伸長したことにより183百万円（同51.8%増）となりました。

<アジア>

(単位：百万円)

	2023年3月期 第3四半期	2024年3月期 第3四半期	増減
売上高	46,619	44,739	△1,879
営業利益	1,856	1,550	△306

「トミカ」や「ポケモン」関連商品等が好調に推移したことに加え、タカラトミーアーツのアミューズメントマシン「ポケモンガオーレ」の好調が継続いたしました。また、中国においては、前期第1四半期に行われていたロックダウンの反動もあり販売が復調いたしました。さらに、香港・台湾では「BEYBLADE X」の販売を日本と同時期の7月にスタートさせるとともに、11月以降に韓国・中国等アジア地域において販売を拡大させました。

一方で、生産子会社であるTOMY (Hong Kong) Ltd.における欧米向け出荷が減少したこともあり、売上高は44,739百万円（前年同期比4.0%減）、営業利益は1,550百万円（同16.5%減）となりました。

（2）財政状態に関する説明

〔資産、負債及び純資産の状況〕

<資産>

流動資産は、前連結会計年度末に比較して3,656百万円増加し、115,320百万円となりました。これは主として、現金及び預金の減少があった一方で、受取手形及び売掛金、商品及び製品が増加したことによるものです。

固定資産は、前連結会計年度末に比較して1,168百万円減少し、46,686百万円となりました。これは主として、投資その他の資産の増加があった一方で、無形固定資産、有形固定資産が減少したことによるものです。

<負債>

流動負債は、前連結会計年度末に比較して330百万円減少し、52,726百万円となりました。これは主として、支払手形及び買掛金、未払費用の増加があった一方で、短期借入金が減少したことによるものです。

固定負債は、前連結会計年度末に比較して5,439百万円減少し、13,855百万円となりました。これは主として、長期借入金、リース債務が減少したことによるものです。

<純資産>

純資産は、前連結会計年度末に比較して8,257百万円増加し、95,425百万円となりました。これは主として、利益剰余金、為替換算調整勘定が増加したことによるものです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2024年1月26日公表のとおりであり、変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	66,455	52,299
受取手形及び売掛金	20,905	35,496
商品及び製品	16,694	18,478
仕掛品	730	507
原材料及び貯蔵品	1,100	1,074
その他	5,972	7,679
貸倒引当金	△194	△215
流動資産合計	111,664	115,320
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	13,593	13,783
減価償却累計額	△9,357	△9,654
減損損失累計額	△910	△919
建物及び構築物 (純額)	3,325	3,210
機械装置及び運搬具	2,862	2,905
減価償却累計額	△2,335	△2,445
減損損失累計額	△35	△35
機械装置及び運搬具 (純額)	492	424
工具、器具及び備品	24,725	25,841
減価償却累計額	△22,779	△23,759
減損損失累計額	△960	△1,031
工具、器具及び備品 (純額)	985	1,050
土地	3,933	3,947
リース資産	8,746	7,141
減価償却累計額	△4,791	△3,441
減損損失累計額	△393	△427
リース資産 (純額)	3,561	3,272
使用権資産	2,916	2,765
建設仮勘定	423	643
有形固定資産合計	15,638	15,313
無形固定資産		
のれん	15,616	12,738
その他	10,114	11,670
無形固定資産合計	25,731	24,409
投資その他の資産		
投資有価証券	2,979	3,279
繰延税金資産	1,483	1,633
その他	2,033	2,068
貸倒引当金	△10	△18
投資その他の資産合計	6,485	6,963
固定資産合計	47,854	46,686
資産合計	159,519	162,007

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,213	14,979
短期借入金	10,043	—
1年内返済予定の長期借入金	8,901	7,450
リース債務	3,198	3,239
未払金	7,276	9,266
未払費用	8,058	10,944
未払法人税等	1,562	3,899
引当金	473	456
その他	4,328	2,489
流動負債合計	53,056	52,726
固定負債		
長期借入金	10,177	5,050
リース債務	3,669	3,347
繰延税金負債	431	296
再評価に係る繰延税金負債	472	472
引当金	401	368
退職給付に係る負債	2,597	2,656
その他	1,546	1,664
固定負債合計	19,295	13,855
負債合計	72,352	66,582
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,459	3,459
資本剰余金	8,147	6,818
利益剰余金	60,092	66,149
自己株式	△3,587	△2,920
株主資本合計	68,112	73,507
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,317	1,554
繰延ヘッジ損益	680	1,368
土地再評価差額金	624	624
為替換算調整勘定	16,712	18,796
退職給付に係る調整累計額	△433	△457
その他の包括利益累計額合計	18,900	21,884
新株予約権	154	33
純資産合計	87,167	95,425
負債純資産合計	159,519	162,007

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	148,760	160,251
売上原価	90,367	94,241
売上総利益	58,392	66,010
販売費及び一般管理費	45,340	48,742
営業利益	13,052	17,267
営業外収益		
受取利息及び配当金	114	324
受取賃貸料	114	107
その他	197	153
営業外収益合計	426	585
営業外費用		
支払利息	424	608
為替差損	539	335
その他	347	329
営業外費用合計	1,312	1,274
経常利益	12,166	16,579
特別利益		
固定資産売却益	6	4
新株予約権戻入益	54	16
特別利益合計	61	21
特別損失		
固定資産売却損	3	3
固定資産除却損	1	4
減損損失	1	2,672
新型コロナウイルス感染症による損失	33	—
事業構造改善費用	56	169
その他	—	11
特別損失合計	95	2,862
税金等調整前四半期純利益	12,132	13,738
法人税等	3,999	4,701
四半期純利益	8,132	9,036
親会社株主に帰属する四半期純利益	8,132	9,036

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	8,132	9,036
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	18	237
繰延ヘッジ損益	△160	687
為替換算調整勘定	3,586	2,083
退職給付に係る調整額	△7	△24
その他の包括利益合計	3,437	2,984
四半期包括利益	11,570	12,020
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	11,570	12,020
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結損益計算書関係)

1. 減損損失

前第3四半期連結累計期間においては、重要性が乏しいため記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

用途	種類	場所	減損損失 (百万円)
—	のれん	米国ネブラスカ州	2,417
事業用資産	無形固定資産（その他）、 投資その他の資産（その他）	東京都葛飾区	252
事業用資産	建物及び構築物	栃木県壬生町	1
遊休資産	土地	栃木県壬生町	0

当社グループは、事業用資産については地域及び事業の関連性を基礎とした管理会計上の区分によるグルーピング、遊休資産については個々の物件をグルーピングの最小単位としております。

上記の米国ネブラスカ州ののれんについては、Fat Brain Holdings, LLCにおいて継続的に営業損失を計上しており、当期の業績動向を踏まえ事業計画を見直した結果、当初想定していた収益が見込めなくなったため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し当該減少額を減損損失（2,417百万円）として特別損失に計上しました。なお、回収可能価額は使用価値により測定しており、使用価値の算定にあたっての割引率は13%を採用しております。

上記の東京都の事業用資産については、継続的に営業損失を計上しており、かつ将来キャッシュ・フローの見積り総額が各資産の帳簿価額を下回るなどにより、帳簿価額を回収可能価額まで減額し当該減少額を減損損失（252百万円）として特別損失に計上しました。その内訳は、無形固定資産（その他）193百万円、投資その他の資産（その他）59百万円であります。なお、回収可能価額は使用価値により測定しておりますが、使用価値については、将来キャッシュ・フローが見込まれないことなどにより、零として評価しております。

上記の栃木県の事業用資産及び遊休資産については、帳簿価額を回収可能価額まで減額し当該減少額を減損損失（1百万円）として特別損失に計上しました。その内訳は、建物及び構築物1百万円、土地0百万円であります。なお、事業用資産の回収可能価額は、正味売却価額により測定しております。正味売却価額については、当該資産の廃棄を予定していることから零として評価しております。遊休資産の回収可能価額は、正味売却価額により測定しております。

2. 新型コロナウイルス感染症による損失

前第3四半期連結累計期間において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中国上海市におけるロックダウンを受け事業活動停止期間中に発生した固定費（人件費・減価償却費）等を計上しております。

3. 事業構造改善費用

前第3四半期連結累計期間において、海外連結子会社における事業再編等の決定に伴い発生した損失56百万円を事業構造改善費用として計上しております。

当第3四半期連結累計期間において、海外連結子会社における事業再編等の決定に伴い発生した損失169百万円を事業構造改善費用として計上しております。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	日本	アメリカズ	欧州	オセアニア	アジア	合計
売上高						
外部顧客への売上高	107,798	23,464	5,551	2,260	9,685	148,760
セグメント間の内部売上高 又は振替高	10,884	167	—	—	36,933	47,985
計	118,682	23,631	5,551	2,260	46,619	196,745
セグメント利益又は損失(△)	15,417	△457	△574	121	1,856	16,362

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	16,362
セグメント間取引消去	△503
全社費用(注)	△2,806
四半期連結損益計算書の営業利益	13,052

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自2023年4月1日至2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	日本	アメリカズ	欧州	オセアニア	アジア	合計
売上高						
外部顧客への売上高	118,796	23,358	5,417	1,971	10,707	160,251
セグメント間の内部売上高 又は振替高	12,894	22	20	—	34,031	46,968
計	131,691	23,380	5,437	1,971	44,739	207,220
セグメント利益又は損失(△)	19,477	△292	△447	183	1,550	20,471

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	20,471
セグメント間取引消去	△6
全社費用(注)	△3,198
四半期連結損益計算書の営業利益	17,267

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。